





私自身の制作と抽象表現についての接点を日本美術中心に探し、
原始の感性により「自然」を変形させた文様やパターンに注目をした。
(自然を追い求めるのに、それだけでそのままはおけない。)
抽象表現主義は具象から抽象への道を意識的に辿り、古代人は抽象という概念がないまま、
「抽象的」と思える形状をシンボルとして生み出していった。
アブストラのあの造形は「自然」から得たものだった。
それは私の身の回りに、深く具象的な表現で、可愛らしい線画のパターンや図象として溢れ出ている。
既にパターン化されたものを抽象化する為の媒介として、火や水を使った。
火や水は目で捉えようと思ったものを具象的に変形させ、根源的な有機の世界へと引き入れてくれる。
あの日以来、追い求める美しい自然はもうない。
それでも、私の中で不安定に存在する原始の喜びを、常に確認したいと思っている。

In my work, I primarily search through Japanese art to find links between my representation and abstract expression, and then focus on designs and patterns that transform "nature" even more so toward the primitive emotions. (Seeking out nature, yet unable to leave it in its original state.) Abstract expressionism mindfully traces the path from concrete to abstract, yet the ancient people were able to create symbols shaped to what is now viewed as abstract without the concept of abstract expression. I wanted the construction of my work for *Abstra* to come from "nature." And what I found was an overflowing amount of extremely specific expressions in the form of icons and patterns with charming designs. As the agent in moving a previously-developed pattern into an abstraction, I chose fire and water, for fire and water precisely transform what the eye is trying to capture, and invite the viewer into a fundamentally organic world. Since that tragic day, the beautiful nature I sought no longer exists. But despite this, my wish is to continue to verify the primal joy that exists precariously within me.

抽象とは歴史である。
20世紀に発明され、さまざまな変遷を遂げてきた抽象的な表現は現在においてかたちとして残ってはいるが、造形的な影響力はないように思う。しかし、我々の時代においても抽象的な表現形式は今も健在である。我々の時代の抽象表現について考えたとき、それはもはや芸術の要素として取り込まれシステムの一部となっている。そして現代はそのイメージやかたちを再生産し、それを疑いなく使用することができる時代である。私はこの展覧会に参加するにあたり、私の中で「抽象的な表現が持つ衝撃とは一体何だったのか」ということを再考する必要があった。
伝統的ナリリズムの具象性に対する反動としてのモダニズムの抽象性がある様に、絶えず新たな芸術の潮流が生まれる可能性は歴史の中にも、自らの立脚点もその中にあるように思う。

Abstract is history. Invented in the 20th century, abstract expressionism went through various transformations and remains tangible today, but seems to lack any divergent impact. Still, the format for abstract expression is still alive in our current era, and when we consider today's abstract expression, we see that it has been incorporated into a system as an element of art. Today, those images and shapes can now be reproduced and used without a hint of hesitation. In preparing to participate in this exhibition, it was necessary for me to reevaluate what impact abstract expression has had. Just as abstract in modernism exists as a reaction to the embodiment of traditional realism, the possibility exists for fresh waves of art to constantly emerge in history, and I see my standpoint in it as well.

K A O R U K A N

菅 かおる

1974年大分県生まれ。
2000年京都府立総合芸術専門学校美術科日本画コース卒業。2004年京都市立芸術大学国際芸術センターヨーロッパプログラム研究員。伝統的な日本画の技法を用い、機能的でミニマルなイメージを想起させる絵画表現を探索。「内と外」の入口の象徴として定着する「水」をモチーフに制作している。

主な展覧会
2001年 第5回公募新主展 新主賞
2011年 松屋美術館

主な展覧会
2003年 かんかおる展 | 新主賞、新主
2005年 水の感覚 | エッセイ「自然」展
2010年 水とトップ | 機能的な水と絵画 | GALLERY ANTENNA, 京都
主なグループ展
2006年 Millennium - 1800 - の未来 | 京都府立総合芸術専門学校
2007年 手紙の海 | 千穂とあきと | オブジェ・フォーリー、東京
2008年 新主賞 | 新主賞展
2008年 2017 The Drawing Exhibition | 東京 - 芝居
2009年 京都市立美術館2009 | 謙仁と境内 - 藤沢竜、京都
2011年 multiple | PRINZ, 京都
2013年 グループ・オブ・オブ | 日本橋高島屋、東京
その他、巴ハルブ株式会社本社 京料理本乃庵の壁紙制作。

T A K A S H I K U N I T A N I

国谷 隆志

1974年京都府生まれ。
1997年成安造形大学造形デザイン専攻卒業。人間は空間を創るものとする中で増進を促している」という考えのもと、人間と空間の関わりをテーマとした作品を制作する。

主な受賞歴
2008年 第11回同季大塚現代芸術賞

主な展覧会
2003年 カリフォルニア54 | 水戸芸術館、茨城
2005年 現代美術展 | Contemporary And Spirits CAS, 大塚
2007年 The Vertical Horizon | 大塚現代芸術センター - 大塚
2008年 United Series | Contemporary And Spirits CAS, 大塚
2011年 MARS | Gallery PRINZ, 京都
2012年 two passages | 京都市立美術館
主なグループ展
2001年 京都市立総合芸術専門学校~2001新しい道~ | 京都市立美術館、京都
2002年 NEW TOWN 6411 TOWN | 山崎山崎、岡山
2005年 City, met Asia 2005 | ソウル美術館、韓国
2008年 Exhibition as media 2008「LOCUS」 | 神戸アートビレッジセンター、神戸
その他

『アブストラと12人の芸術家』”HER NAME IS ABSTRA”
アブストラクト実行委員会, 2013年発行